

I 目指す学校

『聴覚に障害のある子供たちが、将来の社会参加・自立に向けた確かな力を身に付ける学校』
 大正15年「東京市立聾学校」として開校し、昭和18年「東京都立聾学校」に改称、昭和24年「東京都立大塚聾学校」と改称。平成16年11月に策定された「東京都特別支援教育推進計画」により、再編整備され、幼稚部・小学部を設置する本校と3分教室（城東・城南・永福）となった。
 今年創立100年目を迎える。

- 4つの柱と基盤 ○ ことば（日本語） ○ 学力 ○ 社会性 ○ 健康
 ○ コミュニケーション
- 聴覚障害教育のセンター的機能の発揮

1 ことば（日本語）

保有している聴力を最大限活用し、多様なコミュニケーション手段を身に付け、日本語で読み書きできる力を育み、日本語で表現する力を育成する。

2 学力

幼稚園教育要領や小学校学習指導要領の目標・内容に準じて教育を進めるとともに、障害の状態及び発達段階や特性等に応じた指導を行い、自ら考える力や確かな学力を育成する。

3 社会性

思いやりの心や社会生活上のルールを身に付け、社会で主体的に生きていくための年齢相応の社会性を育成する。

4 健康

自分の健康に対する理解や意識を深める教育を推進するとともに、健康でたくましい心身を育成する。

5 コミュニケーション

伝えたいことを正しく相手に伝え、相手の伝えたい内容を受け取る「伝え合い」の気持ちを育成する。

II 育てたい幼児・児童像

- 知識や技能を身に付け、積極的に活用することのできる幼児・児童
- 自己や他者を認め、お互いの人権を尊重することのできる幼児・児童
- 目標に向かって主体的に取り組み、何事にもチャレンジする幼児・児童
- 将来のことを考え、自己を知り、目標に向けて真摯に努力する幼児・児童
- 自分でできることは自分でやり、基本的な生活習慣の確立を目指す幼児・児童

III 中期的目標と方策

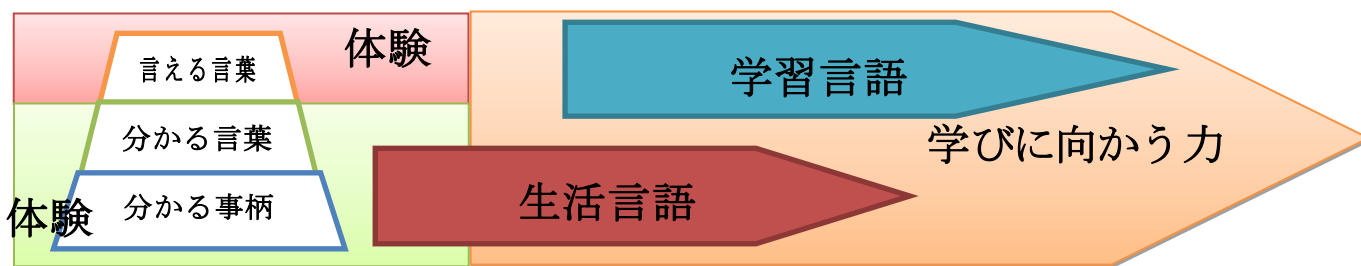
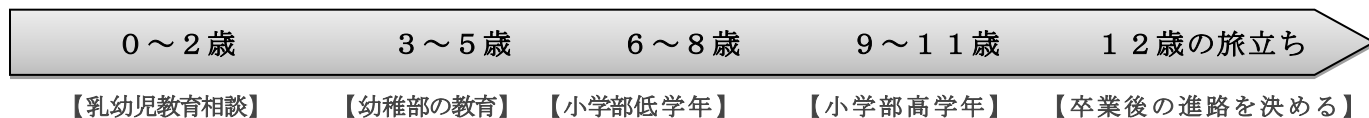
<目標>

- 一人一人が大切にされ、安全で、安心して学校生活を送ることができる学校
- 充主体的に学び、心豊かに成長できる学校
- 教職員が専門性を発揮し、保護者・地域と協働する学校

<方策>

- 1 教育課程の適正化とカリキュラム・マネジメントの推進
- 2 専門性の向上と組織的指導体制の確立
- 3 キャリア教育及び進路指導の充実
- 4 家庭・地域との連携強化
- 5 センター校機能の充実

<0歳から12歳の幼児児童へのアプローチ>



☆ 0歳から言葉の土台を育み、生活言語、学習言語を育成し、自分の進路を自分で決めることができるよう、「考える力」「学びに向かう力」を育てる。

IV 今年度の取組目標と方策

1 教育活動の目標と方策

(1) 教育活動の充実

● 教育課程の適正化と学習の質の向上

小学部高学年における指導内容の精選と単元配列の見直しを行うとともに、教科横断的な学習を推進し、学習の効率化と児童の理解の深化を図る。

● 進路指導及びキャリア教育の充実

進路指導に対する保護者の満足度向上に向け、キャリア教育の体系化を図るとともに、外部人材の活用や保護者への早期情報提供を推進し、指導の充実を図る。

● 4キャンパスにおける組織的運営の強化

業務の標準化及び情報共有の課題に対応するため、業務マニュアルの整備や情報共有の環境構築を進め、定例的な連携体制の強化により組織的な学校運営の充実を図る。

● 教員の専門性向上と人材育成の推進

若手教員及び異動者の増加を踏まえ、体系的なOJTの構築を進めるとともに、教材や実践の蓄積・共有及び指導観点の共通化を図る。また、「自立活動を踏まえた保育・各教科の指導の充実」をテーマとした授業改善を推進する。

● 創立100周年を契機とした学校機能の強化

創立100周年を新たな出発点と位置付け、教育実践の整理・可視化と継承を図るとともに、幼児・児童が主体的に関わる教育活動を推進する。あわせて、センター校としての役割を再確認し、教育相談等の充実に向けた取組みを行う。

● 情報発信の充実

本校の教育活動に対する理解促進に向け、ホームページ等を活用した情報発信の工夫と充実を図る。

● 働き方改革の推進と職場環境の改善

業務改善や会議の精選・効率化を進めるとともに、本校及び分教室間の円滑なコミュニケーションを促進し、持続可能で働きやすい職場環境の整備を図る。

● 学校評価アンケートより

○ 発音・発語に関する指導

指導内容やねらいをより分かりやすく保護者へ伝え、子供一人一人の実態に応じた指導を、組織的に進める。

○ 読書活動・ICT活用の見えにくさ

読書活動の様子、ICTを活用した授業の様子が、十分に伝わっていない状況において、学校だよりやホームページ等でより丁寧に情報発信していく。

令和8年度は、創立100周年という節目を契機として、教育活動の質の向上と組織運営の強化を図り、地域における聴覚障害教育の中核校としての役割を一層推進する年度とする。

- ① 人権教育の推進
自分の大切さとともに他者の大切さを認め、いじめ・体罰の根絶を図る
○ 幼児児童が安心して学校生活を送ることができる環境を整備し、スクールカウンセラー等による相談体制を一層充実させ、いじめや不適切な行為の未然防止及び早期対応を徹底する。
○ 「人権教育プログラム」等の活用により、教職員の人権意識の向上を図り、体罰根絶を徹底する。
○ 教職員の言動や呼称等について校内で共通理解を図り、日常的な人権感覚の向上を図る。
→ ・組織的対応の徹底（アンケート・情報共有の強化）
- ② 幼児児童の聴覚障害の特性に応じた指導の充実（学力向上） 「量」から「質」への転換
○ 幼児児童の聴覚活用や発達段階を踏まえた指導を充実させ、個に応じた指導の質を高める。
○ カリキュラム・マネジメントの視点に基づき、指導内容の精選、単元配列の見直し、教科横断的学習等を推進する。
○ 家庭と連携した学習習慣の定着を図り、基礎基本の確実な定着を目指す。

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、幼稚部・小学部それぞれの発達段階に応じた授業改善を推進する。
- 言語活動・読書活動の充実を図り、日本語力の向上を推進する。
- 手話・音声・文字等を組み合わせた情報保障の充実と、その効果的活用の検証を進める。
- ICT機器の活用について、活用場面の明確化と指導の質的向上を図る。
- ③ 幼児児童の実態に応じたキャリア教育の推進（進路指導の充実） 保護者満足度の向上
 - 発達段階に応じたキャリア教育を体系的に整理し、計画的に実施する。
 - 個別の教育支援計画等を活用し、保護者及び関係機関との連携を強化した進路指導を推進する。
 - 外部人材や地域資源を活用し、社会とのつながりを意識した教育活動を展開する。
 - 保護者への早期かつ計画的な情報提供を行い、進路に関する理解促進を図る。
- ④ 生活指導の充実 社会性とコミュニケーションの育成
 - 道徳教育及び心の教育の充実を図り、自己肯定感を高める指導を推進する。
 - 基本的な生活習慣の確立を図り、時間を守る態度や挨拶の定着を図る。
 - コミュニケーション能力の向上を意識した指導を行い、集団生活への適応力を高める。
- ⑤ 安全・安心な教育環境の整備 未然防止の組織的強化
 - 校内事故ゼロを目指し、ヒヤリハット事例の共有と安全意識の向上を図る。
 - 防犯・防災・交通安全等の取組を計画的に実施し、危機対応力の向上を図る。
 - 医療的ケアの安全な実施体制を確保する。
 - 食育指導及びアレルギー対応を推進し、安全で健康的な生活環境を整備する。
- ⑥ 組織的・機能的な学校運営の推進（人材育成・組織力向上） 100周年への組織的取り組み
 - 4キャンパスの一体的運営を推進するため、業務の標準化及び情報共有の仕組みを構築する。
 - 業務の見える化とマニュアル整備を進め、組織としての共通理解を図る。
 - 働き方改革を推進し、業務の精選・効率化により持続可能な運営体制を構築する。
 - 体系的なOJTを通じて教員の専門性向上と人材育成を図る。
 - 校内環境の整備及び個人情報管理の徹底を図る。
 - 創立100周年を契機として、教育実践の整理・可視化及び学校機能の強化を図る。
- ⑦ 行政系組織の充実（経営企画室機能の強化） 経営参画の強化及び連携の質の向上
 - 教育活動と連動した計画的・効率的な予算執行を行う。
 - 経営企画室と教員との連携を一層強化し、学校経営への参画を推進する。
 - 給食業務等における関係機関との連携を図り、安全で安定した運営を行う。

2 今年度の取組目標に対する具体的方策

重点目標と方策

<p>(1) 人権を尊重した教育の推進</p> <p>①いじめ、体罰防止、自殺予防等に関わる校内職員研修の実施</p> <p>②教職員のことばかけ、服装等の身だしなみの改善</p> <p>③いじめアンケートや日常観察を通じた早期発見・早期対応の徹底</p>	<p>年2回</p> <p>全教職員 随時</p> <p>いじめアンケート 年3回実施</p> <p>未解決のいじめ 0件</p>
<p>(2) 学習指導</p> <p>①聴覚活用（補聴器や人工内耳、補聴援助システム）、手話、口話等を適切に活用した指導の徹底</p> <p>②幼児児童の実態に応じた指導方法の工夫と日本語力の向上</p> <p>③場に応じたコミュニケーション力の育成</p>	<p>保護者アンケート満足度95%以上</p> <p>文法テスト改善率 前年度比向上</p> <p>児童アンケート「授業が分かる」80%以上</p>

<p>④個別指導計画・年間指導計画の提示と保護者との共通理解 ⑤発達検査・学力テストの実施と指導への活用 ⑥研究授業・研究保育の充実による授業改善 ⑦「考え・議論する道徳授業」の推進と公開 ⑧「家庭学習習慣の定着に向けた取組の強化（※重点改善） ⑨ICTを活用した主体的・対話的な学びの推進（※質的向上） ⑩キャンパス間オンライン授業及び交流の充実 ⑪各種コンクール等への参加による学習意欲の向上 ⑫資格取得の推奨（算数検定、漢字検定等の受検推進）</p>	<p>保護者アンケート満足度 95%以上 実施率 100%、 教員一人年 1 回以上実施 公開授業 年 1 回以上 家庭学習に関する肯定的回答 80% 以上 ICT 活用授業実施率 100% キャンパス間交流 各学期 1 回以上 各種コンクールへの応募・参加 受検者数 前年度比増加</p>
<p>（3）生活指導・進路指導 ①個別ニーズに応じたケース会議の実施 ②防災・安全教育の計画的実施（訓練・環境整備） ③いじめアンケートの活用と組織的対応。 ④スクールカウンセラー等との連携による支援体制の充実 ⑤進路だよりの発行及び保護者向け説明会の充実（※改善） ⑥キャリア教育の体系化と外部人材の活用（※重点） ⑦聴覚障害者スポーツ等を通じた社会参加意識の向上</p>	<p>必要事案 100%実施 避難訓練 月 1 回実施 未解決のいじめゼロ SC 面談・支援会議 必要件数 100% 対応 保護者アンケート満足度 90%以上 各キャンパス年 1 回以上の進路関 連行事実施随時 各キャンパス 1 回以上実施</p>
<p>（4）学校運営 ①企画調整会議等を活用した組織的課題解決の推進 ②YY 文字起こし等を活用した情報保障の充実 ③働き方改革の推進（業務精選・会議効率化）リフレッシュ退 勤 DAY（RTD）を促進（※重点） ④学校だより・HP 等による情報発信の充実（※重点） ⑤乳幼児教育相談の充実と体制整備（※重点） ⑥外部機関・連携校との連携推進 ⑦手話研修・遠隔通訳等の活用推進 ⑧指定事業の適切な実施 ⑨創立 100 周年事業の推進と教育活動への位置付け（※重点） ⑩ 4 キャンパス間の業務標準化と連携強化（※重点）</p>	<p>早期の課題把握と解決策の検討・ 通年実施 通年実施 活用率 100% 長時間勤務者 前年度比減少 HP 更新 150 回以上 相談件数 240 件以上対応 保健師等研修 年間 2 回 関連機関研修等 年間 2 回実施 手話研修・手話講座の開催 実施率 100% 全計画 100%実施 業務マニュアル整備及び共有</p>
<p>（5）特別活動・その他 ①交流及び共同学習の計画的実施 ②副籍制度を活用した交流の充実 ③学習成果の発表機会の充実（芸術活動等） ④医療的ケアの安全な実施体制の確保 ⑤保護者ニーズに応じた連携の工夫 ⑥サービス・個人情報保護に関する研修実施 ⑦適正な予算執行</p>	<p>交流活動 各学年年 1 回以上 直接交流 60 名以上 各種コンクール等への参加 医療的ケア安全委員会年 3 回以上 開催 面談・対応満足度 90%以上 研修 年 3 回実施 適正執行率 100%</p>